

「アジア SEND 派遣参加報告書」

京都大学文学研究科 1年 額田聖菜

今回のフィリピンへのアジア SEND 派遣は、わたしにとって3度目のフィリピン訪問でした。しかしこれまでとは違い、今回は先生同伴ではなく、基本的には自分一人での活動となりました。16日間という短い期間ではありましたが、違う土地でひとりで生きようとする中で、今まで以上にたくさんのことを覚えました。街中で人々を観察したり仲良くなった人に色々なことを尋ねたりすることで、フィリピンでのやり方やルールを知り、人々と交流するなかで、フィリピンの人に共通する考え方やメンタリティを知ることができました。そのように、少しずつ学び、現地に馴染んでいくことで、いままでよくわからない世界だったものがだんだんわかるようになり、ますます知りたいと思うようになりました。またそうやって少しずつ覚えていくわたしを、周りのフィリピン人の友人たちも喜び、更にいろんなことを教えてくれたので、たくさん知ることができました。JFC(日本人とフィリピン人を両親に持つ子ども)の友人たちは「初めて日本人の友達ができた」と、自身のルーツである日本とつながりを持ってたことを喜んでくれました。このようにお互いのことを知っていくプロセスは本当に楽しいものでした。

また、日本とはまったく違う環境やルールを持つフィリピンにおいて、16日間大きな問題もなく生活できたことで、自分がどこに行っても馴染み、生活していくことができるという自信を持てるようになりました。海外で生活する上で必要となるたくましさや身につけたと思います。また日本に居るとひとつの見方にとらわれやすいですが、フィリピンに滞在し、フィリピンでの見方を学んだことで、必ずしもひとつのあり方でなくてもいいのだと思えるようになりました。柔軟性が高まったと思います。

今回の滞在期間中には、①修士論文執筆に向けた調査、②フィリピン大学における SEND プログラムを行いました。①に関して、JFC とその母親を支援する NGO を訪問し、母子に対しインタビュー、JFC の通う公立学校の見学を行った。また、在外フィリピン人委員会(政府機関)を訪問し、日本人の配偶者を持つ結婚移民へのインタビューと外国へ移住する子供向けのガイダンスプログラムを見学した。海外での英語を用いた調査は初めてであり、インタビューや訪問の予約がうまくいくか不安はありましたが、人にも恵まれ、順調に調査を進めることができました。今回の調査によって、日本に暮らす JFC の背景理解、そして JFC が抱える共通の問題を見出すことができました。特に今回の調査で得た情報は、修士論文のなかで1章分をとって扱いたいと考えています。②に関して、SEND プログラムでは、自身の研究内容と絡め、JFC が日本の学校生活で抱える困難を紹介することで、日本の特に学校文化について紹介しました。発表後、先生や生徒からコメントを頂くことができましたが、日本とフィリピンにまたがる問題を扱っているため、フィリピン側からの意見をもらえたことはとても貴重であったと思います。

実際にフィリピンで調査をするなかで、調査以前よりフィリピンにいる JFC と日本にいる JFC の抱える問題の共通性を強く意識するようになりました。今後日本での調査がメインになりますが、機会があればもう一度フィリピンにおいても調査をしたいと思います。